

令和6年度取り組み内容および達成状況(2024)

1 <中長期目標>

- ①「智・徳・体を修め社会に奉仕する」の建学の精神を再確認し、生徒一人ひとりに洗練された感性と豊かな心を身につけさせる。
- ②生徒一人ひとりの夢が実現できるよう、個々の能力を伸長させ、希望進路の実現を推進する。
- ③生徒・保護者や地域から愛され信頼される南大阪の代表的な学校とする。
- ④泉州地域を代表する進学実績をあげ、大阪を代表するスポーツ校として浪商ブランドを確立する。

2 <重点目標>

☆スポーツと進学の2本を柱にした学校の構築をめざすため、次の2点を重点目標とし、浪商ブランド確立の基礎とする。

- ①学習活動を充実させる。
- ②部活動において成果を発揮する。

☆生徒の希望進路実現のため、次の点を重点目標とする。

- ③進学指導マネジメントシステムの構築
- ④進学実績の成果向上
- ⑤中高一貫体制の確立

☆生徒一人一人に豊かな心を身につけさせるため、次の点を重点目標とする。

- ⑥規律・規範の確立と自主性の伸長
- ⑦人権教育・安全教育の充実

3 <目標達成状況>および<今後の課題と取り組み>

重点目標	令和6年度 具体的な取り組み内容と達成状況	令和7年度 今後の課題と取り組み
① 学習活動の充実	・各教室にホワイトボード、最新の大型プロジェクターを導入した。また、iPadの効果的な利用、ICTの更なる活用のため授業研究を行った。 ・令和7年度カリキュラム再編成に向け、委員会で協議を重ねた。<A> ・進級規定（成績評価・追試・出校日数等の在り方等）の見直しを行った。<A> ・学年が上がるに伴い学習時間は増加するが、入学後の早い時期から学習習慣を高める対策として朝学習等に取り組んだ。 ・進路実現に向けた進学講習、進路ガイダンス等については各コースの活動内容、生徒のニーズに合わせた形態、内容に改善した。<A> ・各コースの目標、特色を踏まえ、効果的かつタイムリーな働きかけを行い、生徒一人一人の進路実現を支援した。<A>	・「生徒の意見や感想を聞いて、授業を工夫している先生が多い」「子どもは先生の学習指導は、ていねいだといっている（保）」の肯定率が80%を下回っているのに対して、「本校の教員は生徒の意見や感想をよく聞いて、授業を工夫している（教）」の肯定率が80%になっている。必要に応じて生徒の実態に合わせた授業を考えていく。 ・「入学して、また進級してから学習に取り組む時間が増えた」の肯定率がここ2年80%に届いていないので、学習と部活動を両立させる取り組みを行う。 ・「学習でタブレットを有効に活用している」の肯定率が96%とかなり高い数値になっている。より効果的に活用できるように研修や情報交換を行う。

② 部活動の成果	・生徒会を中心に各クラブ員一人一人が活発に活動できるよう、表彰伝達などを積極的に行った。＜A＞ ・クラブ掲示板を用いて、各クラブの大会情報等を共有し、学校全体で応援できる雰囲気作りに努めた。＜B＞ ・SNSを活用し、各クラブの取り組み、成果、魅力について発信した。＜A＞ ・文化部合同イベントの開催、文化部間また地域との連携を通した活動も視野に入れ、部員一人一人が活躍できる機会を設けた。＜C＞ ・進学・未来型探究領域生徒の行事やクラブ活動への参加率が低下している中、クラブに変わる活動の検討を行った。＜A＞	・「私はクラブ活動に。積極的に参加している」の肯定率が毎年 80%を超えており、クラブ加入率とほぼ一致している。活発に活動できる環境を作っていく。 ・スポーツ生獲得が軸となる。他府県生(寮生)を受け入れできる環境整備が急務である。今年度も熊取を中心とした近隣からの受験生が多く、今後、更に地域との関係性を深めた募集活動を展開していきたい。
③ 進学マネジメント	・コースごとの進路説明会、進路関係の取り組みについての点検と整備を行った。＜A＞ ・進路希望アンケートを活用した進路関連行事を開催した＜A＞ ・高 3 年生への進路検討会を複数回開催し、学年全体で進路指導を行った。＜A＞ ・進路実現のために大学や専門学校などを招き、年間を通した進路ガイダンスを全生徒が参加しやすい日時に開催した。＜A＞	・進路に関する項目(「本校のカリキュラムは自分の進路にあっている」「本校では、進路についての情報がよく伝えられている」「進路に関する説明会や情報は、進路決定の役に立っている」)の肯定率がすべて 85%以上なので、希望進路実現に向けてのサポートをより充実させていく。 ・より一層高大連携を強化し、大阪体育大学の魅力を発信し、受験者増をめざす。
④ 進学実績	・希望進路実現に向けて、1 人ひとりの生徒に丁寧な対応を行ったが、合格実績としては、産近甲龍レベル以上が 60、看護医療系が 43 と、目標の数には届かなかった。＜C＞ ・総合型選抜(AO)、指定校推薦は昨年度を上回ったが、大阪体育大学への進学は昨年度を下回った。＜B＞ ・提携校との国際交流や看護医療体験等が計画的に実施され、生徒にとって幅広く進路や将来を考える機会となっている。＜A＞	・「私は進路の目標を持って、毎日の学習に取り組んでいる」の肯定率が毎年 80%を超えているが、もっと高い数値になってほしい項目である。希望進路実現に向けてさらに丁寧な対応をしていく。 ・公募制推薦入試や一般入試に対応できる生徒を育成する。 ・希望進路実現のための提携校等との交流は生徒にとって満足度の高いものである。より成果のあるものに整えていきたい。
⑤ 中高一貫体制の確立	・中高一貫体制の確立に向け、連動的かつ効率的な学習指導、校務運営が行われるよう、日々の連携を大切に、細部まで点検した運用を行った。＜B＞ ・入試広報部を新体制でスタートさせ、中高とも一体感ある運営をめざし、役割、責任、協働すべき業務等を明確に示し、今まで以上に積極的に活動を進めた。＜B＞ ・キャリア、学習、部活動、様々な活動において、高校生が中学生をリードし、交流できる機会の提供に努めた。＜B＞	・「本校の校務運営は、計画的・組織的に行われている(教)」 「業務の効率化、スリム化はすすんでいる(教)」の肯定率が 60%を下回っている。分掌会議の定例化や情報共有の強化等をめざし、働き方改革につなげていく。 ・浪商中学校から浪商高校への内部進学率を 100%に近付けるために、内部進学説明会やコースの特色説明会等を実施し魅力を伝える。 ・教育力向上に向け、計画的に教員研修を実施する。 ・教員面談を年に 2 回実施し目標や課題を共有し、中高一貫体制をより強固なものにする。

⑥ 規律規範の確立・自主性の伸長	・校則、食堂利用に関するルール等について生徒たちに働きかけ、より主体的に学校生活を考えていける機会を増やした。＜A＞ ・各学期に生徒、保護者へ注意喚起文を配布するとともに、朝終礼、授業、集会等の機会も利用し、粘り強い働きかけを行った。＜B＞ ・全教員が iPad を利用。今まで以上に校内情報を円滑にタイムリーに共有できるよう努めた。＜B＞ ・授業、登下校、全ての活動において教員全体が生徒たちを見守る雰囲気を作るため、授業巡回や登下校指導等を積極的に行った。＜A＞ ・特に文化祭や体育祭においては、生徒主体で取り組む機会を増やし、活動実績を積み上げた。＜A＞	・「本校では、社会のルールや命の大切さを学ぶ機会がある」の肯定率が 88%である。生徒主体の集会や授業等で継続的に学ぶ機会を作っている。 ・「本校は清掃が行き届いている」の肯定率が毎年 80%を下回っている。全校清掃日だけではなく普段から自主的に気持ちいい環境を作っているように働きかける。 ・「文化祭や体育祭等、学校行事に生徒自ら積極的に参加している」の肯定率が毎年 90%を超え、とても満足度の高いものになっている。他の行事においても積極的に取り組むことができる環境を作る。
⑦ 人権教育・安全教育	・「HR」「総合的な探究の時間」の計画を主任会議で定期的に確認しながら実施したことで充実した内容になった。＜A＞ ・個々の特性に応じた対応をスクールカウンセラーも交えて丁寧に対応できた。＜A＞ ・人権、安全に関係するテーマの教員研修、生徒対象講演会を今年度も実施した。「救急救命講習」「熱中症対策」「命の教育」等。＜A＞	・「私は友達が困っているとき、相談に乗ったり、助けたりする」「私には、悩みなどを相談できる友達がいる」の肯定率が 90%前後でかなり高い数値である。「命の教育」等を通して、心身ともに成長できるような取り組みを行う。 ・「本校に入学させたことに満足している。(保)」の肯定率が 3 年連続 90%を超えている。また、「さくら連絡網で学校からの連絡は適切に行われている (保)」の肯定率が 2 年連続 98%とかなり高い数値になっている。安心安全に学校生活を送っていただけるように 100%に近づきたい。

※達成状況は次の 5 段階評価で示す

＜S＞よく達成できた ＜A＞まあまあ達成できた ＜B＞どちらとも言えない
 ＜C＞あまり達成できていない ＜D＞まったく達成できていない

【学校関係者評価及び学校診断アンケートの結果報告】

「令和6年度の実施内容及び自己評価」、生徒、保護者、教職員の「学校診断アンケート」の資料やグラフに基づき詳細な説明を行った。

1) 学校の現状

- ・中学は目標 35 名のところ 39 名、高校は目標 265 名のところ 270 名の新入生を迎える予定である。高校は、コースごとでみると充足していないコースもあるが、全体の目標人数には達することができた。
- ・近隣中学校からの学校訪問や出前授業の依頼が増えている。また、その実施中学校からの受験も増えている。
- ・中高とも生徒が活躍する場面が増え、行事等の満足度も高くなっている。

2) 質問・意見

- ・肯定率が2～3年続いて低く、改善されていない項目がある。具体的な取り組みを行い、ぜひ改善してもらいたい。

中学について

- ・アピールポイントになる、体育・スポーツ分野の更なる特化、中高一貫教育による多様な進学への対応、ICT化の推進については、成果がでているようにみえる。
- ・めざす学校像の具現化に向けて、中期的な目標も着実に成果をあらわしている。
- ・学習活動において、様々なデータから伸長がうかがえる結果が出ているが、進学実績との結びつきはどうか。
- ・中高一貫で浪商高校に進学し、国公立大学や有名私立大学に進学していた生徒が多数いる。
- ・クラブ活動の実績が毎年高くなっていっているように感じる。

高校について

- ・スポーツと学習活動の両立が大切だと思うが、両立はできているのか。また、できていない場合、何か具体的な対策はあるのか。
- ・自習室の開放や個別対応を行っている。システム化していくことが今後の課題である。
- ・ICTの活用や進路実現に向けたガイダンス等の具体的な取り組みはどうか。
- ・生徒会の主体的な活動が増えているので、今後も生徒が活躍できる場面をどんどん増やしていく。
- ・部活動においては、毎年上位に入賞するクラブが増えてきている。
- ・各項目において着実に成果をおさめてきている結果、高い肯定率になっているのではないかと。

開催日：

令和7年3月19日

令和7年6月22日

出席者：

大阪体育大学浪商中学校・高等学校 校長 工藤哲士
大阪体育大学浪商中学校・高等学校 教頭 北川浩司
大阪体育大学浪商中学校・高等学校 教頭 濱田倫史
大阪体育大学浪商中学校・高等学校 事務長 岸本雅彦
大阪体育大学浪商中学校・高等学校 入試対策室長 植村大樹
大阪体育大学浪商中学校・高等学校 主幹教諭 篠山久美子
大阪体育大学浪商中学校・高等学校 主幹教諭 松田博志
大阪体育大学 スポーツ科学部スポーツ科学科長 伊原久美子
(体育学部健康・スポーツマネジメント学科長兼任)

同窓会副会長 古川義高

堀博充税理士事務所 堀博充